

## 藤沢市立石川小学校

研究テーマ：石川小の授業づくりを工夫しよう～主体的・対話的で深い学びのある授業に向けて～

### 1、実践の目的

一人1台端末が整備されて3年目。昨年度の校内研究では、学びを充実させるためにいかにICTを活用するかについて取り組んだ。その成果もあり、ICTを活用した授業は、日常の景色となった。

そこで今年度の校内研究では、石川小学校2023年度のスローガンである、「あいさつで“つながろう”石川小」を受け、ICTの活用に特化した授業づくりをめざすだけでなく、コロナ禍であっても、さらに、人と人との“つながり”を意識し、個々の学びを深めることを目的とし、研究テーマを「石川小の授業づくりを工夫しよう～主体的・対話的で深い学びのある授業に向けて～」とし、1年間の研究に取り組んだ。

### 2、実践の内容

#### (1) 各学年部会の取組

研究の体制としては、各学年の児童の実態や発達段階に応じた実践となるよう、学年部会で取り組むこととした。

“つながり”を意識した取り組みを具現化するための手立てとして

- ・学校生活や学習の中で関わり合い、学び合い、認め合いのある機会の設定
- ・体験や経験を通して、感動したことや思いを伝えたい機会を工夫
- ・自分で考え、判断する機会の設定
- ・チャレンジしたくなる課題の設定

の4点を設定した。また、テーマに迫るための土台としては、児童一人一人が安心で

きる学級づくりが不可欠であることから、分かりやすい授業であること、そして、児童の学習状況をしっかりと見取り、次の指導にいかすことで指導と評価の一体化を図ることとした。

《各学年のテーマ》

○1年生「いっぱい話してしっかり聞いて楽しく学び合おう」

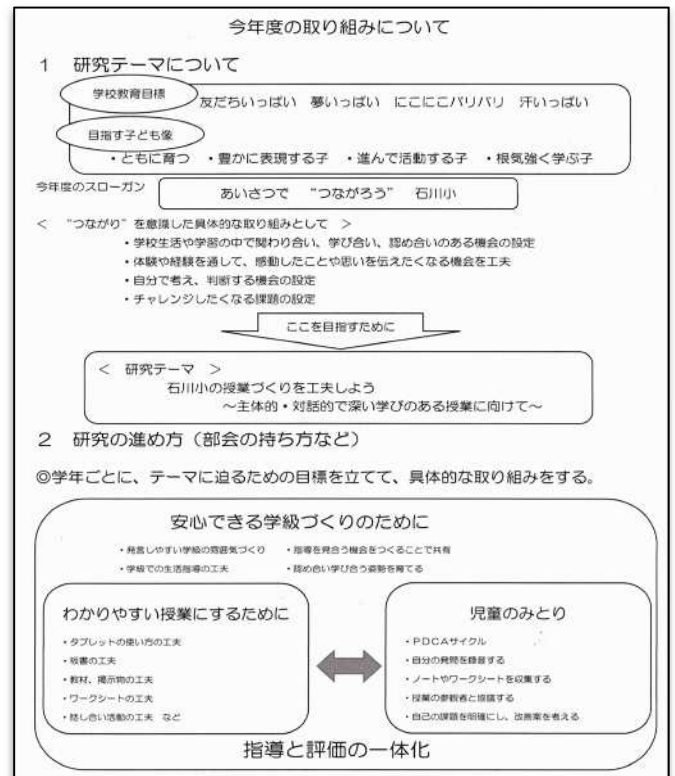
○2年生「関わり合いを通して、相互理解を深めよう」

○3年生「思いや考えを伝え合おう」

○4年生「つなげよう絆 育もう思いやり」

○5年生「ICTを使った対話的な活動の充実」

○6年生「自分の考えを明らかにして、まとめ、共有する」



自然と関わる体験活動、学級の枠を超えての関わり合い、教材・教具の工夫、話し合い形態の工夫、グループでの課題解決、言語や表現の技能を身に付ける、ICTの活用を含めた発表ツールの選択等、様々な方法で、子どもたちに、「伝えたい」という思いをつくることや、相手の考えを「聞きたい」と興味をもたせることを促した。そのことは、子どもたちが主体的に考え、子どもたち同士がつながる機会となった。



【1年生「たのしいあき いっぱい」】



【6年生「日光ガイドブックをつくろう」】

## (2) 夏休みの研修会

夏休みの研修会では、講師に、日本授業UD学会常任理事である溝越勇太氏を招聘し、「全員が話したくなる！聞きたくなる！トークトレーニング」や「俳句をつくろう～全員が楽しくわかる・できる俳句づくりをめざして～」についてご講演いただいた。子どもたちが話したくなるための工夫「スモールステップ化・ゲーム化・共有化」や、聞く際の配慮「共感する・認めるほめる・個別の声かけ」をはじめ、明日から使える具体的なアイデアについてご指導いただいた。

## 3、実践の成果

子どもたち同士がつながり合い、学びが深まるよう手立てを工夫したことで、低学年では、「積極的に思いや考えを伝えることができた」「自分のことだけでなく、友達の主張も受け入れるなど、協力姿勢が見られた」、中学年では、「話したり聞いたりする経験の積み重ねで、人と関わる際の態度や姿勢を意識するようになった」、高学年では、「話したり聞いたりするだけでなく、伝え合いの手段としてICTも活用しながら工夫して伝えることができた」といった成果が得られた。

## 4、今後の展開

実践から見えた課題に対する、今後の取り組みとしては、低学年：「最後まで話を聞く」「内容を理解しながら聞く」「グループ活動での役割を明確化することで主体性を引き出す」、中学年：「個別の目標設定とそれに対する教師の支援の工夫」「コミュニケーション力を高める」、高学年：「グループ内だけでなく、全体共有の場でも主体性を高める工夫」等があげられた。

その他、全体として、子ども同士の関わりの様子からは、相手意識をもって関わり合うことや、読んで理解を深めること、自分の考えを書き表すことに、子どもたちの苦手意識が見て取れた。今年度の取り組みにさらにこれらの新たな視点をもって、今後も子どもたちの“つながり”を大切にしたい授業づくりを継続したいと考える。

また、どの子どもたちにとっても、分かりやすく、もっと学びたい、関わりを深めたいという主体的な意欲をさらに引き出していけるよう、ユニバーサルデザインの視点も意識した研究に取り組んでいきたい。